

[平成27年度予算審査特別委員会（建設分科会）－03月04日-01号]

◆芝田 委員 土木の地域整備事務所の議論がありましたけど、分科会で私も地域整備事務所について1項目だけですが質問してまいりたいと思っております。

大変樹木の剪定もいろいろすぐやっていたり、また道路保守等もやっていたり、大変やっぱり住民、市民にとって身近な事務所でありますので、時間のかかる分も実際あるんですけども、きょうはちょっと地域整備事務所について議論を進めたいと思います。

まず、この広報さかいに載っております当初の予算案のマーカ―引いているところについて御説明をお願いします。

◎小畠 土木監理課長 OHPで打ち出しされていますライン塗ってます道路や公園の管理などという歳出予算の中の費目でございますが、これにつきましては、いわゆる歳出目的別で申しますと、土木費というものでございます。主に建設局と建築都市局が行っている事業費関係の予算でございます。あと、これに下水道事業会計の繰出金も含まれております。詳細につきましては、土木管理費、道路橋りょう費、河川水路費、都市計画費、住宅費などがございます。以上でございます。

◆芝田 委員 616億4,110万円ということで、いわゆる一般会計の歳出に占める割合が16.6%、ここにお示ししていますように、今答弁いただきました道路や公園、また下水道、上下水道ということなんですが、過去3年間のこの予算の推移をお聞かせください。

◎小畠 土木監理課長 委員お示しの一般会計当初予算におけます道路や公園の整備などとして示されております歳出予算の過去3年間の推移でございますが、平成24年度は557億2,460万円、平成25年度は555億7,793万円、平成26年度は595億3,290万円となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 ありがとうございます。いわゆる550から616ということで、ちょっと微増ということでふえておりますけれども、特にきょうは地域整備事務所についての予算、費用についての質疑をさせていただくんですが、過去5年間の当初予算も含めて、平成23年度からの土木部各地域整備事務所の歳出予算についてお示しください。

◎小畠 土木監理課長 平成23年度は42億3,361万円、平成24年度は43億1,340万円、平成25年度は41億1,174万円、平成26年度は39億3,664万円、平成27年度は41億9,039万円となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 いわゆる横ばいということで推移されていると思います。今、事務所は3つの事務所、また過去ですね、いろんな区の今北部なんかは東と北と美原ということで、いろんな編成がえもございました。我々公明党の市議団としては、毎年、秋に予算要望するとき、いつも建設のこの常任委員会の所管の地域整備事務所の予算の拡充を求めていますけれども、今の答弁では微増ということでございます。

確かに先ほど言いましたように、住民に身近な問題で、すぐ堺市はやはり政令市などで対応しているということで、他市からもうらやましがられる部分もあって我々もそれは感じるわけですが、区局連携という、きょうは皆さん方の所管とはまた違うかもわかりません。ただ、区局連携の話の中で市長がリーダーをとって、いわゆる生活に密接するこういった道路とか、また道路照明灯とかいろんな部分において、区の特性を生かして、また区の声が生かされるということは聞いてるんですが、この当初予算も含めて過去5年間見ても、そこが余りふえてないように思うんですが、この辺は当局はどのような御見解でしょうか。

◎小畠 土木監理課長 各地域整備事務所は、安心で安全な道路空間の確保をするため、また市民のニーズに応えるため、限りある予算と人材を活用し、知恵等を出し合いまして、効率的、効果的な道路施設の維持管理に取り組んでおります。

区局連携ですが、各区役所とは、区役所が開催する管理職が集まる会議に各地域整備事務所の所長または参事が出席するなど、情報交換を密に行っており、区役所の声も伺っております。区役所との連携につきましては、地域の要望など各区の実情と意見を踏まえた予算要望や事業を実施しております。以上でございます。

◆芝田 委員 そういった会議体に皆さん方の土木の地域整備事務所の代表が行って、いろいろ情報共有したり、また意見を聞き、そしてまたあるところでは区長が地域からの要望を直接伝えたり、また現場で調査をしてる場面も、ある区の区長さんが朝、早朝ですね、駅の危ない箇所を見たことも私も直接見たこともあるんです。しかし、予算の推移から見れば、まだまだそれが形としてあらわれていないと。きょうはこの話はこれ以上進めませんが、いわゆる本来市長が言われているそういう区局連携で住民の声が形になるには、やはり予算のこの金額においてもやっぱりあらわれないといけないと思いますので、当局の皆さんがそういう予算どりのそういう動きも含めて、これは提言でありますけど、しっかり進めていただきたいなと思います。

あと、きょうは分科会なんで、道路舗装費のところ、いわゆる舗装補修マネジメント事業について御説明をお願いします。

◎小畠 土木監理課長 舗装補修マネジメントと申しますと、路面のひび割れやわだち掘れなどを調査する路面性状調査の結果を踏まえまして、劣化の進みぐあいを考慮しながら各年度の補修量及び補修費用を予測し、最も適した時期、工法により計画的に舗装補修を行うことで、舗装費用の縮減、平準化を図るものです。以上でございます。

◆芝田 委員 予算の金額は幾らになってますか。

◎小畠 土木監理課長 平成27年度の当初予算でございますが、舗装補修マネジメント事業につきましては4億6,100万円となっております。以上でございます。

◆芝田 委員 私も余りこれ耳なれない事業ということで、平成23年度からスタートしてるということなんですが、いわゆる予防保全ということだと思いますが、その成果はどうなんでしょうか。

◎小島 土木監理課長 舗装補修マネジメントの成果でございますが、これにつきましては、単年度で評価するものではなく、対症療法的な管理と比較しまして、コスト面での成果を評価することが必要であり、計画的な補修を行うことにより、平成23年度から30年間で約75億円の削減効果があると試算しております。以上でございます。

◆芝田 委員 効果があるということでまた試算も出ておりますし、いわゆる4年前の大震災、また笹子トンネルですかね、公共インフラの予防保全というのが、そういう概念というか、そういうことが大事であるということで、またコストが削減されるということで、我が公明党もその旗振り役にも一翼を担わせていただいたわけでありますので、しっかりまたこの辺も前に進めていただきたいなというふうに思います。

最後に、以前から私、いわゆるチバラボとか、またいわゆるスマホを使って、まちの公園の落書きとか、そしてまた道路の陥没とか、またバリカーが破損したとかそういうのを登録していただいた市民が参画して、我々議員に相談来るよりも、市民がそういう事務所のほうに投稿して皆さん方がすぐ駆けつけて直していただくというね、こういう仕組みづくりを提言もさせていただいておるんですが、本市としてはその取り組みに対してどのように今お考えでしょうか。

◎小島 土木監理課長 現在地域整備事務所における道路に関する苦情や要望などへの対応につきましては、電話や市民の声などの通報や連絡を受け、速やかに現場へ駆けつけ、通報連絡者と現場にて立ち会い等を行い、調査、応急処置など、その都度現場対応を行っております。

委員お示しの大阪市が取り組みを進めているマイコミおおさかでございますが、これにつきましては、民間の画像投稿サイトを活用し、地図情報上に地域課題やその解決に向けた取り組み状況を投稿する市民参加型のコミュニケーションツールの1つでございます。

この取り組みでは、維持管理に対する市民への要望及びその対応を目的にするものだけではなく、新たなコミュニケーションシステムを構築するもので、現在大阪市24区で試験運用中ございまして、今後課題を検証すると聞いております。

本市におきましても、大阪市での検証結果も踏まえ、庁内関係部局の意見を聞きながら引き続き研究してまいりたいと考えております。以上でございます。

◆芝田 委員 以前も研究というのがありましたけど、皆さん方も携帯電話もお持ちだと思いますが、スマートフォンもすごい勢いでふえてまして、そしてまたツイッターとか、また今フェイスブックでまさに企業またお店なんかも、それを取り入れないと時代おくれというか、お客さん来ないというね、そういう時代になりまして、やっぱり日進月歩のこの進化の中で、特にそういう携帯、スマホというのはあれなんで、やっぱりそういうので市民が参画できて、そしてまた、いち早く安全・安心なまちの一翼を市民とともに担っていくということが仕組みづくりが大事なんで、ぜひともこれを早期に進めていただきたいなと思います。

私もちよっと今回ヒアリングの中で、いわゆるカーブミラーとか道路照明灯等も電球が

切れたり、カーブミラーが角度が曲がって破損してても、そこに番号が書いてて、そういうのを市民の声でとかいうのはホームページで記載されてるということで、私、知らなかったんですけど、そういう細かいことかもわかりませんが、IT・ICT化をさらに進めて、部長に答えていただくところはちょっと飛ばしちゃったんですけど、5年間の事務所の予算も横ばいと言いながら、その中身は人が減って1人当たりのお仕事の量も多いというふうにはお聞きして、大変な中でやられてるのはよく存じておりますけども、やはり時代に取りおくれずに、しっかりまた市民とともにまちの安全・安心、そしてまた土木整備事務所の本来あるべき姿に近づくようお願いをいたしまして、質問を終わります。ありがとうございました。